

会議録

会議の名称	令和6年度第2回加東市まちづくり推進市民会議		
開催日時	令和6年10月25日(金) 14時から15時20分まで		
開催場所	社公民館 研修室		
議長・副議長の氏名 (座長 梅野巨利、副座長 藤川和義)			
出席及び欠席委員の氏名			
〈出席委員〉			
・鵜野泰寛	・坂本幸子	・柴崎孝彦	・藤川和義
・梅野巨利	・黒崎みどり	・中江艶子	・勝田憲弘
・川元浩司	・高松善教	・松本久美子	・三宅堂之
〈欠席委員〉			
・大西信輔	・山根謙順	・菊川裕幸	・須田康之
・田尻倫生	・松本武		
出席した職員の氏名及びその職名			
〈事務局〉			
・まちづくり政策部長 三木秀仁	・まちづくり政策部企画政策課長 岸本純子		
・まちづくり政策部企画政策課副課長 村上計太	・まちづくり政策部企画政策課主査 仲井智紀		
・まちづくり政策部企画政策課主査 畑谷拓哉			
〈事務局以外〉			
・健康福祉部長 近澤孝則	・健康福祉部参事兼健康課長 細川公代		
・健康福祉部福祉総務課長 平野好美	・健康福祉部社会福祉課長 岸本英典		
・健康福祉部高齢介護課長 井澤彰子	・病院事業部事務局長兼経営企画課長 大西祥隆		
・病院事業部事務局総務課長 前中公和	・病院事業部事務局医事課長 大原由子		
・病院事業部事務局ケアホームかとう事務長 服部紹吾			
議題、会議結果、会議の経過及び資料名			
1 議題及び会議資料			
第2次加東市総合計画前期基本計画の進行管理（施策評価）について			
【資料】令和5年度 第2次総合計画 後期基本計画 施策評価シート〔政策Ⅳ〕			
2 会議の経過			
発言者	会議の経過 / 発言内容		
座長	1 開会		
	2 協議事項		
	第2次加東市総合計画後期基本計画の進行管理（施策評価）について		
	○政策Ⅳ主要施策(21)(23)(24)の一次評価内容について担当部署から説明		
	【質疑応答等】		
座長	◆主要施策(21) 地域医療の確保 ※質疑応答なし		
	・一次評価はAであるが、それで良いか。		
座長	【「異議なし」と呼ぶ者あり】		
	・二次評価もAとする。		

座長	◆主要施策(23) 健康増進の推進
参事	・加東市の自殺率は兵庫県内で比べると数値が高いということだが、外国人人口が多いという加東市の特徴も影響しているのか。
座長	・自殺者に外国人が多いということではなく、日本人が多いと認識している。
参事	・自殺者の年齢層の分布はどうなっているか。
	・全国的な特徴と同様に、加東市も、同居、独居に関係なく高齢者が多い。平成31年度より「加東市自殺対策計画」による取組を続けており、自殺者数が減少し、かなり国や兵庫県の数値に近づいてきたが、依然として平均よりやや高い数値となっている。その為今後も取組を進めていきたい。高齢者や介護事業所等の支援者に相談窓口を周知する等、様々な機会を捉えて取組んでいくことが大切だと考えている。
座長	・一次評価はAであるが、それで良いか。 〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕
座長	・二次評価もAとする。
座長	◆主要施策(24) 出産・子育て環境の充実と親子の健康づくり ※質疑応答なし
	・一次評価はAであるが、それで良いか。 〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕
座長	・二次評価もAとする。
	○政策Ⅳ主要施策(22)の一次評価内容について担当部署から説明 【質疑応答等】
委員	◆主要施策(22) 病院事業の安定運営
	・私の家族はかかりつけ医を受診し、入院が必要であれば北播磨総合医療センターで調整することが多い。説明の中で、病床数を増やすという話があったが、それは北播磨総合医療センター等の周辺の病院と病床数を調整するということなのか。
局長	・説明不足で申し訳ないが、病床数を増やすというのは、加東市民病院内で使用している病床数(実績)を増やすという意味で、病床数自体は現在の137床から変更する予定はない。病床数は北播磨圏域内で、機能ごとに管理されている。
委員	・今年、家族が入院した際に、お見舞いに行く時間に苦慮した。フルタイムで働いていると、面会可能時間帯内に病院に行けず、お見舞いに行っても荷物だけ受け取る状態になってしまう。面会可能時間帯を改善はできないのか。
局長	・面会可能時間帯は、平日の14時から16時であったが、今週から平日・休日の14時から16時に変更した。14時から16時という時間については変更ないが、今後徐々に広げていきたいと考えている。
座長	・一次評価はAであるが、それで良いか。 〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕
座長	・二次評価もAとする。
	○政策Ⅳ主要施策(25)(26)の一次評価内容について担当部署から説明 【質疑応答等】
座長	◆主要施策(25) 支援対象家庭・児童に対する支援体制の充実 ※質疑応答なし
	・一次評価はSであるが、それで良いか。 〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕
座長	・二次評価もSとする。
委員	◆主要施策(20) 福祉社会づくりの推進
	・災害時要支援者登録制度について、避難行動要支援者名簿を消防団に共有することはできないのか。災害時の早期対応に繋がると思うのだが。
課長	・避難行動要支援者名簿は、市から地区の区長、自治会長、民生委員に提供している。消防団でも把握したいということであれば、前向きに検討していく。
委員	・まちづくり指標③「避難行動要支援者の個別避難計画策定件数(累計)」について、目標値に対して実績値が30%弱に留まっているが、今後、目標値が増えていく中、実績値も十分増えていくという見込みなのか。主要事業を構成する主な事務事業の9番「個別避難計画策定事業」で予算計上されているが、計画策定が思うように進まない原因は予算が足りないのか、それともその他の要因があるのか。

課長	・今回の実績値（令和５年度）については、年度当初からケアマネージャーや相談支援専門員への制度説明を開始し、実際に計画策定に費やしたのは、半年程度だった為、件数が少ないといった側面はあるが、国からも個別避難計画の策定はあまり進んでいないということを知っている。要因としては、計画を立てることとされているケアマネージャーや相談支援専門員といった専門職の方々が、日常業務が多忙な中で計画策定にまで手が回らないことにあると考えている。実際、今後の目標値を達成していくことは現状では難しいと感じている。
部長	・個別避難計画には、避難場所・避難経路・避難支援者という３つの大きな項目がある。このうち、避難支援者について計画に明記すると、いかなるときでも支援に行かないといけないう責任の重さを感じて、どうしても支援者になれないといった要因もあると聞いている。
委員	・個別支援計画について、様々努力はされているが、追い付いていないといった印象であるが、今後、どのように進めていくか、検討している方策などがあれば伺いたい。
課長	・引き続き、専門職の方々に対して普及・啓発を行っていく。加えて、地区にも周知すると同時に、ケアマネージャーや相談支援専門員が付いていない方々については、市職員が計画を立てていくことを予定している。
座長	・一次評価はＢであるが、それで良いか。 〔異議なし〕と呼ぶ者あり〕
座長	・二次評価もＢとする。
	○政策Ⅳ主要施策(27)の一次評価内容について担当部署から説明 【質疑応答等】
座長	◆主要施策(27) 障害者・要援護者福祉の充実 ※質疑応答なし ・一次評価はＢであるが、それで良いか。 〔異議なし〕と呼ぶ者あり〕
座長	・二次評価もＢとする。
	○政策Ⅳ主要施策(28)～(30)の一次評価内容について担当部署から説明 【質疑応答等】
委員	◆主要施策(28) 介護予防と高齢者の生きがいづくりの推進
課長	・ボランティアポイント制度について、導入して１年以上が経過し、多くの登録があるとのことだが、活動の場所や地域ごとの登録者のばらつき等を伺いたい。 ・活動の場所は、主にデイサービス事業所である。その他、小規模多機能事業所や、グループホーム、特別養護老人ホーム、サービス付き高齢者住宅がある。社地区に６事業所、滝野地区に８事業所、東条地区に５事業所というふうに活動の場所が点在している。地区ごとの登録者のばらつきについては、現在手元に資料がなく、すぐには答えることができないが、利用実態を把握していきたいと思う。令和５年度は、制度が開始したばかりということもあり、ポイントを換金する方は非常に少なかった。
座長	・まちづくり指標の数値は１００％を超えており、市民アンケートによる目標値であるため、実績値が無い項目もあるものの、総合評価の基準ではＳに該当するのだが、一次評価をＡとしている理由を伺いたい。
課長	・協働の取組(市の取組)計画内容②「高齢者を支える人材育成と活躍の場の充実」について、まちづくり指標の数値は達成しているものの、やっていく中でうまく進まないという実感があつたため、それを加味してＡとしている。
委員	・私の住む地区では、ひとり暮らしの高齢者も多く、地域活動の場まで行く交通手段が無いことがある。他に頼る相手も高齢者であり、運転に不安を感じることもある。送迎まではいかなくても、何かしら支援の方法を考えてほしい。ひとり暮らしの高齢者が自宅で倒れているところを、たまたま隣に住む民生委員が発見したことがあった。ひとり暮らしの高齢者が増える中で、地域活動の場だけが増えていってもどこまで効果があるかということがあると思う。
課長	・活動の場ができて、移動手段が確保できないというのは非常に課題に思っている。移動手段として、デマンドタクシーという制度があるが、活動の場でも利用できないかと考えている。ひとり暮らしの高齢者が孤立することのないように、

座長	外に出向く目的と手段の充実を、十分考えて進めていきたい。 ・一次評価はAであるが、それで良いか。 〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕
座長	・二次評価もAとする
座長	◆主要施策(29) 介護保険制度の健全かつ円滑な運営 ・ここについても、まちづくり指標の数値は100%を超えており、市民アンケートによる目標値であるため、実績値が無い項目もあるものの、総合評価の基準ではSに該当するのだが、一次評価をAとしている理由を伺いたい。
課長	・介護サービス全体の活動強化というところと、ケアプラン点検等による給付の適正化について、十分でないところがありAとしている。
委員	・主要施策(23)の中で、高齢者の自殺率が高いという説明があった。介護する側もされる側も様々ストレスを抱えており、それも自殺要因の一つだと思う。そうしたときに、例えば高齢介護課と健康課というふうに市役所内の課の垣根を越えて情報共有したり連携することはあるのか。
課長	・複雑化・複合化した課題を抱える世帯が増える中、一つの課で支援が完結することが難しい状況がある。そうしたときに重層的支援体制整備事業という制度があり、複数の課や関係機関が集まる支援会議を開く等して、情報共有・連携しながら支援を行っている。
座長	・一次評価はAであるが、それで良いか。 〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕
座長	・二次評価もAとする。
座長	◆主要施策(30) 地域包括ケアの推進 ・これについても、総合評価の基準ではSに該当する。Aと評価しているのであれば、一次評価理由の欄に、ネガティブな記載がないといけなと思うのだが、そうではないので、これについても理由を伺いたい。特段の理由は無く、控えめに評価したということであれば、Sでも良いのでは。
課長	・一次評価理由の記載については理解が十分でなかった。担当者との話し合いの中で、活動が十分であったかという観点で控えめな評価にしたのだが、具体の理由については申し訳ないが確認が必要である。
副座長	・二次評価をするのが本会議であるので、この場で協議をして二次評価をSにしても良いと思う。
委員	・住民の満足度で言えば、例えばデマンドタクシー制度を私の両親は理解していません。地域公共交通ネットワークの取組に連動した高齢者の外出支援としては不十分な状況があるので、二次評価はAで良いと私は思う。
座長	・委員の意見を参考に二次評価はAで良いか。 〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕
座長	・二次評価をAとする。 3 閉会

令和6年11月29日

座長 梅野巨利
副座長 藤川和義